

人と馬との 新しい可能性を探る 乗馬セラピー

26

《セミナー2005「治療的乗馬―理論と実際―」
ドイツに学ぶ！》

《治療的乗馬》の歴史と実際を知る。

《人間の心身の健康と教育》に寄与する馬、《治療的乗馬》の理論と実際に関する本格的なセミナーが、ドイツ政府が行なう《日本におけるドイツ2005/2006》公式プログラムとして、国際的指導者を招き開催された。今回はこのセミナーについて紹介しよう。

深野 聡 写真・文
text & photo by Fukano Satoshi

15年来の強い願い

障害のある人々への馬の活用は80年代半ばから国内でも本格的に始まり、特に子どもに対しての活動は、複数の活動団体、各地の乗馬クラブ等で積極的に展開している。しかし、今後日本で発展・定着するためには、この領域を行なう専門家の不足、使用できる馬及び調教者の不足、活動場所の不足、実施経費の不足といった課題がある。

特殊教育のナショナルセンターとして、特殊教育に関する総合的な研究と専門的・技術的研修を行なう国立特殊教育総合研究所はこの領域に早くから注目、1990年から障害のある子どもへの教育における馬の活用を試し、ドイツの研究者とも交流して実践・検討を続けてきた。中心メンバーである滝坂信一さん（現教育相談セン

ター総括主任研究官）は、この取り組みが日本で根付くためには、各地で行なわれる活動の質的向上と専門領域の参加による社会的認知が重要と考えてきた。そして、治療的乗馬の理論と方法論の確立に国際的な役割を果たしてきたドイツから学ぶべきものが多いと感じていた。

《治療的乗馬》とは、馬を用いて障害のある人々への医療、教育や心理対応、スポーツ・レクリエーションを行なう《Therapeutic Riding》と呼ばれる活動を訳したものだ。今回のセミナーを企画した滝坂さんは、ドイツにおけるこの領域の基礎を築き、国際障害者乗馬連盟会長（当時）も務めた、カール・クルーパー教授を日本に招き、この領域がいかにして生まれ、発展し、根付いたかについて、国内の関係者が直接にふれるセミナーを実

現したいと強く、そして長く願っていたという。

日本で初めての 本格的セミナー

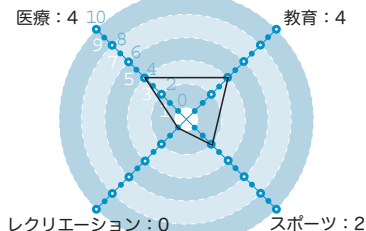
この企画は、突然実現に向け動き出す。昨年夏に治療的乗馬について滝坂さんが講演を行なった日本代替・相補・伝統医療連合会議が、この企画に理解を示しセミナー開催の事務局を引き受けると申し出たのだ。さらに、研究所での実践

の際にこれまでチームを組んできた調教師、獣医師、乗馬インストラクターなどのスペシャリストもセミナーへの全面的協力を引き受けた。加えて医療やドイツ語翻訳など様々な分野からの協力者も集まった。こうしてセミナー実施に向けた実行委員会が形成された。

今年、ドイツの文化、科学芸術、くらしなどを日本に紹介する《日本におけるドイツ2005/2006》が開催されている。



障害のある受講者を実際に乗せたデモンストレーションも行ない、この模様はNHKでも放送された



*ここでの「乗馬セラピー」とは、馬を通じて、心や身体を健康を取り戻すことを目的とする、「療法」や「活動」のすべてを包括した意味で使っています

P R O F I L E

《ドイツ治療的乗馬評議会》
名誉会員 Gold Cross
カール・クルーパー教授 (Prof. Dr. Carl Klüwer)
精神科医・ルール大学名誉教授・ドイツ治療的乗馬評議会名誉会員 Gold Cross・元国際障害者乗馬連盟会長・ドイツ馬術連盟名誉ライダー。戦後、反社会的な青少年の治療教育センターを開設。1970年からは医療の一環として治療的乗馬を実施。ドイツ治療的乗馬評議会の指導者養成カリキュラム作成・指導に従事し、この領域の礎を築いた。



《セミナー2005「治療的乗馬—理論と実際—」》 日時：11月11日(金)～13日(日)〈講義〉於：オリンピック記念青少年総合センター 〈実技〉於：渋谷区立代々木ポニー公園



01 講義ではビデオ、スライドが数多く用意され、医学的、科学的説明が分かりやすく進められた。このスライドは乳児が母親に抱かれることと馬に乗ることの関連を説明している



02 治療的乗馬での調馬索運動は、通常よりも長い短いムチを用いると紹介。写真はそのムチの使用法のレクチャー



03 実技は東京乗馬倶楽部が運営を委託される渋谷区立代々木ポニー公園で行なわれた。クライアントの重心を整えるために、指導者は必要に応じて手を添える



04 特徴的な役割を担うのがロングレインによる運動。クライアントは自分で馬を御す感覚が味わえ、指導者も脇に立って直接指導できる

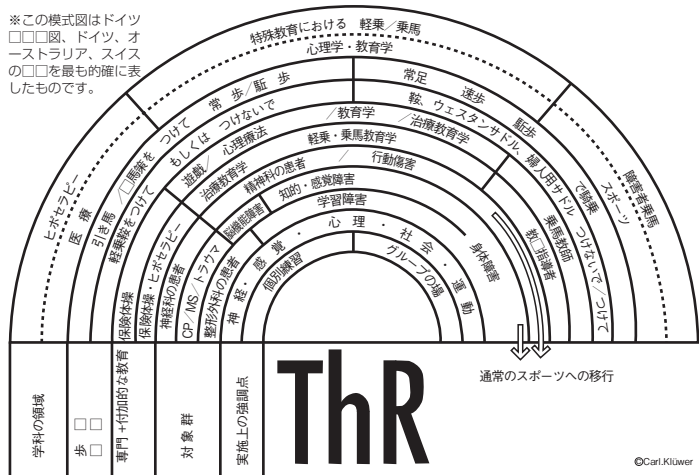


05 活動可能なクライアントには馬上で様々なポーズを体験させて、ボディバランスの実感に役立てる



06 参加人馬の習熟度が進むと、実技はロングレインと調馬索での活動が同時に行なわれた。最終日は受講者もセラピーホースにまたがり治療的乗馬を体験

※この模式図はドイツ
□□図、ドイツ、オーストラリア、スイスの□□を最も確に表したものです。



《ドイツにおける治療的乗馬の活動について》 クルーバー教授が監修し図示したもの(訳：滝坂さん)
※CP……脳性まひ MP……多発性硬化症

「第二次世界大戦時、私は衛生兵としてロシア戦線に従軍しました。極寒の冬は非常に厳しく、疲れ果てた兵士は歩くこともままならない。しかし、そんな時

伝わった治療的乗馬の精神

調馬索による調教やロングレイン(後ろ手綱)による馬の操作法、治療的な乗馬の実際などが示された。

はあぶみ革を腕に巻きつけてしまふのです。馬が動けば、兵士は取り残されることもなく、馬に引かれるようにでも歩けば体も暖まる。私はこの経験から馬のもつ偉大な力を、戦後は人の助けに使いたいと思いました。終戦後まもなく開かれた医学会には、私と同じく馬の医療における有効性を確信した医師が30名もいました。こうして医療領域における治療的乗馬(ヒポセラピー)の考え方や試みが生まれていくことになりました。

自らの体験談で歴史を語るクルーバー教授の言葉は、この領域を築いたパイオニアとしての力強さに溢れつつも、心から馬を愛するホースマンとしての優しさが感じられた。そして、治療的乗馬における馬の存在のすばらしさとその潜在可能性を日本に正しく伝えたいという強い意思が、最終日に受講者へ手渡された受講証一枚一枚へのサインに込められていた。

セミナー終了後、「このセミナーが治療的乗馬についての認識を増やし、我が国の実情に合った展開を模索するきっかけとなり、関係者間のネットワーク化や各地での実践に貢献すればと思います。今後は各地の活動団体とも協働し、治療的乗馬に関する振興評議会のような組織の設立に向けた準備を進めたい」と滝坂さんは語っていた。また、海外から講師を招くことのようなセミナーは今後も続けた

ドイツ連邦功労十字章リボン賞も授与された世界的権威、クルーバー教授を招聘するセミナーは速やかにこの公式プログラムに登録された。ドイツ大使館の後援を得た実行委員会は、さらに東京乗馬倶楽部と健康増進機器製造・販売会社の協賛を得る。また全日本障害者乗馬協議会(ANTRA)、「馬と健康社会」研究会といった障害者乗馬団体に加え、東京農業大学、帝京科学大学、同志社大学、学習院大学の後援を受け、本格的な治療的乗馬のセミナーが11月11日から開催される運びとなった。

セミナーは、医療・福祉・教育

の関係者及び馬に関わっている人に参加者を限定し、医師、理学療法士、教員、福祉施設支援員、障害者乗馬の実践者など27名の専門家が全国から集まった。プログラムは、午前を室内での「講義」、午後を屋外での「実技」と「実技を振り返っての協議」で構成され、3日間で治療的乗馬の歴史と現状、活動に用いる馬と馬具、馬と人間との関係をどう見るか、馬、クライアント・指導者の関係、治療的乗馬の領域と特徴などが紹介された。注目の実技を伴うプレゼンテーションには遠く北海道から手配した専用のセラピーホースなど4頭が用いられ、調馬索による調教やロングレイン(後ろ手綱)による馬の操作法、治療的な乗馬の実際などが示された。

「このセミナーが治療的乗馬についての認識を増やし、我が国の実情に合った展開を模索するきっかけとなり、関係者間のネットワーク化や各地での実践に貢献すればと思います。今後は各地の活動団体とも協働し、治療的乗馬に関する振興評議会のような組織の設立に向けた準備を進めたい」と滝坂さんは語っていた。また、海外から講師を招くことのようなセミナーは今後も続けた